

砂栽培の可能性

「シェアリング」「地域」「共同研究」「障がい者」をテーマに農業の可能性、農業+αの事業展開について

概要

ATR様敷地内にあるトレファームラボは、トレファーム事業の実証の場として「シェアリング農業の実践」「地域のさまざまな学校や団体との協業」「大学や企業との共同研究」「障がい者の就労」をテーマとし、かつ地域に開かれた農場として運営してきました。これまでの活動総括と今後広がる農業の可能性、農業+αの事業展開をご紹介します。

特徴

■ シェアリング農業の実践

2017年にATR様と協働で開始したプロジェクトがさらに進化し、より地域の方に利用される施設として農福連携と市民農園の長所を掛け合わせた仕組みがシェアリングファームです。平日は障がいのある方に農場を整備してもらい、休日には地域の方が楽しめる農場となる理想的な形の農園です。

■ 地域の様々な学校や団体との協業

この農園を開設して既に5年が経過しました。当初は地域の方のみに活用いただく農園でしたが、地元のNPO法人様に活用いただき、その後は地域の支援学校の生徒さんにも活用いただける開かれた農園となっています。

■ 大学や企業との共同研究

東京農業大学、日本郵便様とともに研究した成果が日本郵便様のフルーツトマトブランドの「さやまる」として既に販売されています。大阪公立大学とはハウスの環境について、ATR様とは海外のスタートアップ企業との連携を行なって頂き、いろいろな可能性が見いだせています。

■ 障がい者就労

全国で多数の福祉施設に導入に頂いており、様々な障がいをお持ちの方でも活躍できる場としての有効性が実証されています。

市民農園
週末のいこいの場
施設利用料という
新たな収入源を確保

農福連携
平日はたらく場
農業からサービスまで
仕事メニューが多い方
が嬉しい

農産品販売
農福連携の中で販売
地域貢献としても
重要な要素だが
売上利益は限りあり

シェアリングファーム

砂栽培の可能性

「シェアリング」「地域」「共同研究」「障がい者」をテーマに農業の可能性、農業+αの事業展開について

概要

ATR様敷地内にあるトレファームラボは、トレファーム事業の実証の場として「シェアリング農業の実践」「地域のさまざまな学校や団体との協業」「大学や企業との共同研究」「障がい者の就労」をテーマとし、かつ地域に開かれた農場として運営してきました。これまでの活動総括と今後広がる農業の可能性、農業+αの事業展開をご紹介します。

特徴

- 川崎プロジェクトは神奈川県川崎市の武蔵小杉の市の遊休地を20年間東レ建設が賃借し有効活用するプロジェクトで来年3月末より営業開始となります。この施設は農業施設であるトレファームを核としたコミュニティの形成の場として企画され、農業施設であるファーム棟、飲食施設であるアウトドアダイニング棟、産前産後ケア施設やクリニックからなるウェルネスリビング棟、芝生広場で構成されています。
- これらの施設はトレファームと有機的に連携し、地域コミュニティの形成を行ない、20年後は新たなふるさととして地域の皆様に記憶される施設となります。

今後の展開

- 川崎プロジェクトは商業施設とトレファームのコラボレーションで新しい事業領域を生み出しています。今後はこの取組を全国各地に広める活動を行なっていきます。特に公園を活用するPark-PFIが同様の取組みとなります。

開催期間中：農場見学を行っております。

是非、お越しください。

11:00、13:00、15:00

見学ご希望の方はスタッフにお申し付けください。

